

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社介護社		
事業所名	グループホーム助一みのかも		
所在地	岐阜県森山町5丁目23番3号		
自己評価作成日	令和7年11月25日	評価結果市町村受理日	令和8年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2171200393-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた施設のため、近い場所で季節の移り変わりを感じる事ができ、桜や紅葉を見に出掛ける事もあります。天気の良い日には庭のベンチに出て、空や空気を感じ、蝶々やトンボを見つけては楽しみ会話も弾みます。干し柿用の柿の皮をむいたり、朴葉に具材をのせて朴葉寿司を作って食べたり、季節行事も毎月取り入れております。「秋祭り」では家族の方にも参加してもらい、一緒にイベントを楽しんでもらっています。毎日の食事は手作りにこだわり、暖かい食事を提供しスタッフも一緒に食べて楽しんでます。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の広々とした敷地には畑もあり、利用者は、天気の良い日には、玄関口のベンチで日光浴ができる。ホーム通信には、行事の際の利用者の写真にコメントを付け、本人直筆の家族に向けた「たより」と担当職員のメッセージを近況報告書として送っている。家族からも、利用者の様子が分かると好評を得ている。行事を通して利用者の楽しみを引き出せるよう、夏祭りでは、利用者も浴衣を着て楽しめるよう工夫している。管理者やケアマネジャーは、職員の意見や提案が出た際には、迅速に対応している。また、働きやすい職場環境作りに取り組んでおり、職員同士も協力し合いながら利用者支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働けている(参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	助一の理念として「いつでも、どこでも、だれでも」を基に、利用者個々の対応について話し合いながら、職員全員が統一した対応を行っている	事務所の壁に、大きな字で書かれた理念を掲示している。また、職員個々の年間目標を書いたカラフルなカードも掲示している。理念と目標を常に自覚し、職員は統一した対応を行い、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生から季節毎に届けられるメッセージ入りのカードや絵を利用者に楽しんでもらっている	自治会は代表個人が加入しており、地域の情報を町内資料等で把握している。放課後児童クラブの小学生から、正月や敬老の日にメッセージカードが届いたり、近くの高校から花が届いている。また、事業所への理解を深める為の交流を検討中である。	事業所主催の行事に、地域住民の参加を得られるよう工夫し、ボランティアの受け入れを行いながら、認知症への理解を深めるための交流機会を作れるよう期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催により他施設などの情報を知る事ができ行政や包括からアドバイスを頂きながらサービスの向上に繋げている	地域住民に理解を深めてもらうためにも、民生委員に参加を再度依頼、出席予定である。協力医には事前に意見を聞き、会議資料に盛り込み、事業所の活動状況を報告している。行政や地域包括支援センターからも助言を得ている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の入所状況の実情を会議を通して伝えたり相談などを行っている。また行政から最新の保険情報や地域の情報を聞き事業所の運営に役立っている。困っている事の相談等もしており常に連携を取っている	運営推進会議の場で、高齢福祉課職員から最新情報や連絡事項を聞いている。急な確認事項は担当者が窓口に出向いている。地域には、独居の高齢者が多く、行政の協力を得ながら常に連携を図っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会にて拘束はしていないか確認している。また見直しも必要に応じて行い具体的にベッド柵の使用方法について話し合ったり都度利用者に合わせた対応を検討している	委員会を定期的に開催し、勉強会では、ヒヤリハット事例や何が拘束にあたるのか等を話し合っている。原因や予防対策、改善方法の周知を図っている。玄関は、安全を考慮し施錠しているが、外出願望の強い人には、職員が寄り添い、一緒に出かけている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽チェックシートを活用し職員全員で毎回不適切なケアについて話し合いをしている。また管理者用のチェックシートも交えて行い虐待の防止に努めている	委員会を身体拘束委員会と同時開催し、勉強会も行っている。虐待の芽チェックシートを活用し、不適切ケアについても実例を挙げて話し合っている。管理者用チェックシートでの確認も実施し、ホーム全体で虐待防止に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もありその制度について勉強会で学ぶ機会を作っている。利用者に必要であれば活用を相談するなどの準備はできている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には1つ1つの項目について解りやすく十分な説明を行い不安や疑問などを聞きながら理解と納得を得られるようにしている。また改定時には文章の通知だけでなく家族会で説明を行っている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見などには訪問時や電話連絡の際に確認し意見交換を行っている また行事参加時にも要望を聞き取れるよう努めている。各月の家族通信では施設の行事やその時々を利用者の写真を貼り状況などを伝えている	職員が笑顔で対応しており、利用者の表情も明るい。家族の面会時には利用者の状態を説明し、要望も聞いている。毎月発行の通信には、利用者の写真と自筆の手紙を添え、職員も手書きで近況を伝えている。日頃の丁寧な対応や利用者ケアで、家族との信頼を得ている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から相談、要望、意見が言いやすい関係を築いている。職員と個々に面談をし意見や考えを聞くように努めている	日頃から、代表や管理者も現場に出ている。職員の意見や提案を尊重し、できることから改善に繋げている。フロアリーダーを決め、リーダーを中心に各フロアごとの問題点について話し合い、全体会議に挙げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員1人1人に合わせた勤務体制が取れるように努めています。また管理者は職員個々の能力を評価し向上心を持って働ける環境作りに努めています	リーダー制の導入で、新たな体制を整えている。毎月、職員の希望する有給休暇を確認し、シフト調整を行っている。更衣室を休憩場所としているが、1時間を確保できている。管理者は職員の相談にも乗りながら、働きやすい職場環境作りに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体のレベルアップのため外部の研修への参加機会をつくるよう努めています。毎月の勉強会では学びたい内容をグループで話し合いそれについて職員全体で学べるようにしています	職員それぞれが自己研鑽に取り組めるよう、研修受講や資格取得に関する費用は、法人が負担している。毎月の勉強会は、中堅職員それぞれが担当を担い、全職員がスキルアップできるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やサービスネットワーク会議に出席するなどし他事業所との交流が図れるよう努めている。 また勉強会で外部から講師を招き専門職からの意見を反映し質の向上を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の声を大切にし寄り添い、話に耳を傾けます。食器拭きや洗濯物たたみなどを行うことにより支え合う関係を築く事やレクリエーションや行事を通して楽しみ共に喜びを感じています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けや会話を通して本人の興味や希望を把握するよう努めています。また表情や行動からも言葉にできない思いを汲み取るよう心掛けています	利用者個々の担当が、家族への連絡も責任を持って行っている。常に寄り添いながら、思いの把握に努めている。意思表示が困難な人の場合は、表情や仕草で思いを汲み取り、家族にも確認をして、本人本位の支援ができるよう努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や続けていきたい習慣を伺い本人主体のケアに繋がるよう配慮しています。ご家族からも希望や日常生活の様子を聴き取りより良い生活につながる計画作りと実践に努めています	担当者は本人から希望を聞き、その内容をケアマネジャーに伝えている。利用者の希望を加え、叶えられるような計画作りを行っている。介護計画を見直した際には職員全員に周知し、統一したケアを行い、家族にも伝えている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やケアの結果、職員の気付き等を記録し申し送りで共有しています。状況の変化に応じてケア方法を随時改善し1人1人に合わせた支援が行えるよう取り組んでいます。	ケアの結果や気づきは申し送り帳にも書き、出勤時に必ず確認している。利用者一人ひとりの課題があり、計画書の重要項目に分かり易く記述、伝達漏れのないよう努めている。ケアプランとケア内容を連動させ、課題改善に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて通院同行を行い個別のニーズにも可能な限り対応できるよう努めています。安心して生活できる体制の整備に取り組んでいます	協力医以外への受診は家族同行を基本としているが、車椅子利用の利用者通院には、職員が付き添っている。また、利用者の買い物同行も行うなど、利用者や家族のニーズには柔軟に対応している。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの来訪で音楽を楽しんだり身体を動かしたりしています。また地域でのイベントに参加できる体制づくりに努めていきたい		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に掛かりつけ医について説明し家族が選択している。24時間体制での対応が可能で家族と情報共有もしています。歯科医についても訪問診療にて早期対応での適切な医療が受けられるよう支援しています	かかりつけ医は家族が選択している。協力医による月2回の往診時は、管理者やケアマネジャーが立ち会い、受診結果や薬の変更などを家族に伝えている。他の医療機関への受診は利用者の情報を提供し、家族が同行している。急変時には、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者とは情報交換をし入・退院時には病院でも施設でも変わりなく支援の継続ができるようにしています。また利用者・家族と治療方法を話し合いながら安心して治療できる関係作りをしています	入院時には職員が付き添い、利用者情報を提供している。長期入院にならないよう、管理者とケアマネジャーが、病院に出向いて利用者の状態を確認し、家族とも相談している。早期退院に向けて、利用者の受け入れ態勢も整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には本人・家族に重度化・終末期の対応については説明をし看取りを行っていない事は同意を得ている。状態の変化時には医師を含め関係者と家族で話し合い本人家族が安心できるように努めています	契約時に、看取りは行っていないことを説明し同意を得ている。終末期は適切な施設を紹介し、不安なく移行できるよう支援している。急な状態悪化で、自然な看取り期に入った場合は、医師の指導の下、家族の了解を得て支援している。今後、契約時に延命措置についての意向確認書の提出を検討している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて緊急時の対応について学び利用者の既往症や内服薬の把握に努めています。ロールプレイングを用いた学びを通してマニュアルの見直しも行っています。ヒヤリハットを利用し反省と今後の注意点を考察しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の通報・消化訓練に加え毎月1日に誘導訓練を行っています。地震・水害時の対策も話し合っており電話での連絡網・一斉メールの確認と周知徹底できるようにしています。また地域の防災訓練への参加もしています。	事業所の防災訓練は消防署立会いの下、年2回実施し1回は夜間想定で行っている。毎月1日には、利用者の誘導訓練も行っている。自治会主催の防災訓練には同地域に住む職員が参加し、訓練の様子を報告している。	事業所単独の火災が発生した場合の避難経路や一時避難所の確保など、自治会と相談しながら、地域や周辺住民の協力を得られる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが確保されるよう日々のケアにおいて配慮している。着替え・入浴時にはプライバシーが守られるよう環境を整え利用者個々が安心して過ごせる空間を提供しています	現在、外部の接遇研修に職員3名が参加しており、内部研修の際に内容を全職員に報告している。管理者とケアマネジャーは、職員の不適切なケアや言葉遣いを見逃さないよう努め、その場で注意し、適切なケアの提供に取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表現できるよう声掛けを工夫したり雰囲気作りを心掛けている。また利用者の話に耳を傾け自己決定できるように支援しています		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中でメリハリをつけながら休みたい時や独りで過ごしたい時には自由に居室へ戻れるようにしています。また天気の良い日には外に出て散歩・外気浴を楽しめるようにしています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を通して季節を感じ干し柿の皮むきや朴葉寿司を作りながら昔を振り返ります。ホットプレートでお好み焼きなど五感を刺激する食体験を大切にしています。作り立ての食事が提供できるよう日々努めています	当番制で職員が献立を考え、三食手作りで提供している。食材は近くの業務スーパーで購入しているが、家族や知人からの差し入れもあり、家族の食材費負担をできるだけ抑えられるよう工夫しながら、作り立ての食事の提供に努めている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせた食事形態を日々確認し状態に合わせた対応をしています。代替えの検討も都度おこなっており家族から好みの物を持参してもらったり食べやすくおにぎりにしたり個々に合わせた食事・水分の提供をしています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施している。必要に応じて一部介助や仕上げ磨きをし口腔内が清潔に保たれているかの確認をしています 治療が必要な場合は歯科往診の支援も合わせておこなっています	毎食後の口腔ケアを実施している。利用者の状態に応じて介助し、清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かり、適切に管理している。治療が必要な時は家族と相談し、歯科往診を受けられるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄出来る支援を行っています。声掛けのタイミングは十分配慮し成功に繋げる工夫をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーには十分配慮し入浴支援を行っています。無理強いすることなく清拭、足浴、衣類交換など都度合わせた対応を心がけています。入浴剤を使ったり、ゆず湯菖蒲湯なども楽しみます		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は殆どロビーで過ごし、レク活動や体操、お手伝い等で体を動かします。天気の良い日には外へ出たりしながら、夜間よく休める支援をしています。また、体調に合わせて休息を取るなどの対応もしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出し忘れ、確認忘れを防ぐため薬を出す人確認した人が定位置に戻す。さらに飲ませる時には日付・名前・いつの薬か声に出して確認し誤薬を防ぐ取り組みをしています。変更や臨時薬が処方された際には申し送り薬箱に張り紙し理解するよう努めています	薬は2名の職員で確認、服薬担当職員に手渡している。利用者と共に氏名・日付の確認、飲み込みまでを確認し誤薬防止に努めている。服薬後や処方変更時には、利用者の体調変化も見落とさないよう努め、異変があれば、管理者から医師に報告し指示を仰いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を大切に楽しく過ごせるように寄り添っています。家事が得意だった人裁縫や編み物、塗り絵が好きで1日でも集中できる人など昔を思い出し利用者同士の会話も弾みます。完成品を楽しみに更に張り合いのあるものになるよう支援しています	毎日、新聞を読む人、手紙を書いたり、塗り絵をするなど、入居後も継続できるように支援している。裁縫の得意な人には雑巾作りを依頼するなど、好きな作業を役割として行えるよう、労いの言葉かけをしている。毎年の干し柿づくりは、利用者全員の楽しみになっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れた日は庭の散歩をし外でおやつを食べたりします。年間行事計画を立て花見や喫茶外出などを実施し個別の外出は家族の協力で実現しています	天気の良い日は、外気浴を兼ねて、屋外でおやつを食べるなどしている。職員と一緒に近所の喫茶店へ出かけたり、年間行事として、春の花見や秋の紅葉見物、ドライブ等で気分転換を図っている。感染予防対策を依頼した上で、家族との外出・外食も可能とし、外出後は、利用者の様子を観察するよう努めている。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は家族を中心におこなっており本人からの希望の物もご家族に準備してもらっています。外出時には欲しい物を自分で買って購入するなどの支援もおこなっています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望がある時には話を聞き家族に電話できるようにしています。また馴染みの人への手紙のやり取りの支援もしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーでは季節を感じてもらえるような飾りつけや貼り絵をし提示しています。廊下には行事の思い出の写真を掲示し利用者自身が立ち止まり見て楽しんでおられます	玄関ホールにソファを置き、日光浴をしながら景色を眺めることが出来る。利用者は、キッチンで調理している職員の様子を見ることができ、家庭的な雰囲気である。リビングや廊下に、行事の際の写真飾り、訪問する家族の楽しみにもなっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やロビーも自由に行き来でき移動は制限なくそれぞれ過ごしたい場所でくつろいで頂けます。また、ソファに座わり、ひなたぼっこをしながら気の合う仲間と会話を楽しめる空間作りに努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にしていた物や家族との写真、使い慣れた物を置き本人がやりたい事をして過ごせるようにしています。一人ひとりに合わせた家具の配置をし安心・安全に過ごせるようにしています		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が良く分るように入り口に名前の札と写真を掛け工夫をしています。また個々の状態に合わせた福祉用具を使用してもらい安全に過ごしてもらえる支援をしています。		